

観光の取り組みについて

1. 主なPR等の取り組み

(1) 海外に向けた取り組み

- ・「中国・韓国メディア及びエージェント招聘事業」として、中国・韓国のメディアやエージェントを招請し、モニターツアー同行取材やファムトリップ（下見旅行）等を実施。

(2) 国内に向けた取り組み

- ・奈良県 観光見本市（旅行事業者・雑誌社等を奈良へ招く）の実施
 - H20. 2 30名参加。全員が石舞台等を視察
 - H20. 10 30名中12名が、奥飛鳥や石舞台、飛鳥寺を視察
- ・JR東海 H20. 10より、「万葉ココロノマドヲ」の配信
 - ※万葉集成立 1250年PCやiPod向け無料動画配信サービス。一首ごとに万葉集に詠まれた風景や自然の映像と音楽を組み合わせたもの。
 - ※JR東海「うまし うるわし 奈良」H18～
東大寺二月堂・お水取り、薬師寺の西塔・東塔、法隆寺、興福寺の阿修羅像、五重塔と猿沢池、西大寺、春日大社

【実施報告】中国・韓国メディア及びエージェント招聘事業

1. 事業の名称

「日中韓3カ国地方政府交流シンポジウム」中国・韓国メディア及びエージェント招聘事業

2. 事業の目的

本事業は、平成19年8月27日（月）・28日（火）に奈良県新公会堂で開催される「日中韓3カ国地方政府交流シンポジウム」開催に合わせて、中国・韓国のメディア及びエージェントを招聘してファムトリップを実施し、奈良県への訪日旅行の促進を図ることを目的とする。

3. 事業の実施主体

「日中韓3カ国地方交流シンポジウム」モニターツアー事業等実行委員会
（構成団体：奈良県・大阪府）

4. 事業の概要

「日中韓3カ国地方交流プログラム」には、中国・韓国から地方政府の首長等約120名が参集し、北東アジアにおける観光交流の活性化を通じた地域づくり等について議論するほか、会議終了後、奈良県・大阪府エリアのエクスカーションツアーが実施された。このツアーをモニターツアーとして実施するとともに、シンポジウムの開催に合わせて中国・韓国からメディア及びエージェントを招聘してファムトリップを実施し、奈良県・大阪府エリアへのPR活動を相乗的に展開し、誘客促進を図る。

（1）メディア招聘

中国・韓国のメディアを招聘し、「日中韓3カ国地方交流プログラム」及びモニターツアーの同行取材による記事掲載等を通じ、中国・韓国でのPRを図る。

招聘期間：平成19年8月27日（月）～31日（金）【4泊5日】

招聘者数：12名（中国・韓国各6名）

（2）エージェント招聘

中国・韓国のエージェントを招聘してファムトリップを実施し、中国・韓国の旅行会社にモニターツアーのコースを含む旅行商品の造成を促す。

招聘期間：平成19年8月28日（火）～31日（金）【3泊4日】

招聘者数：6名（中国6名）

5. 事業の実施期間

平成19年7月～平成20年3月

メディア招聘期間：平成19年8月27日（月）～8月31日（金）

エージェント招聘期間：平成19年8月28日（火）～8月31日（金）

6. 事業の内容

（1）対象国 中国・韓国

（2）対象者

・メディア12名

中国・韓国各6名。取材後に必ず取材内容を掲載又は放映し、奈良県へ成果物を提出

・エージェント6名

中国6名。現在奈良県への商品造成を行っているか、または今後行う意向のあるエージェントを招聘。また、商品造成に決定権のある者が参加。

（3）内容 ファムトリップの実施

（4）日程 別添の通り

メディア2コース（中国・韓国各1コース）、エージェント1コース 計3コース

第一部 日本の中の百済文化

①飛鳥寺

587年 百済から仏教導入、古代国家の形成に寄与

596年 日本最初のお寺‘飛鳥寺’築造

日本が仏教を受容して始めたことが飛鳥寺の築造で、そのモデルになったのは高句麗の青巖寺だった。ところが、その築造を行ったのは現代の公州と扶余から来た渡来人で、彼らが安住した飛鳥は日本古代文化の発祥地となった。

飛鳥という地名の語源は、渡来人は安住した場所に因んで、「安宿」が「飛鳥」に変わったと言うのが有力な説である。そのせいか、飛鳥寺では心の平穏と安らぎを感じた。

しかし、わが国の文化が日本に伝わってきて、文化の花を咲かせた中心地としては今の飛鳥は寂しさを感じさせ、昔の都だった当時の華麗な面影は感じにくかった。その代わり、596年に完工した飛鳥寺が、衰えた姿でも百済人の子孫を迎えてくれているようだった。

百済仏教の痕跡は、止利仏師が製作したと言われている、日本最古の釈迦如来座像を初め飛鳥寺のあちらこちらで見ることができた。本尊大仏は12世紀後半、大火災で損傷を受けたが、仏教史跡としてだけでなく、日本の歴史の中でも意義深い仏像で、今でも元の場所、そこで、そのまま座っている姿から敬虔さを感じる。このように、歳月の重さの中でも百済は日本の中で生きている。

“韓・日の交流、もっと深めるべき” 飛鳥寺 山本宝純住職

“飛鳥寺は百済の恩をうけている所で、建立当時百済から渡ってきて力を貸してくれた皆さんの仏教精神を蘇らせ、相互交流を深めることが、仏様に対する報恩でもあり、感謝すべき田だと思います”住職はまた“仏教を通して韓国と日本両国が互いを理解し、発展するよう祈ってきました”と述べ、20年前扶余を始めて訪れたのをきっかけに、交流を本格化していると説明した。実際、韓国の修徳寺とは、姉妹結縁を結んでおり、定期的に相互訪問しているという。彼は、飛鳥が衰えているのと同じく、‘軍守里’廃寺と‘定林寺址’が田園や民家ばかりに変わっているのを扶余で見かけた時には非常に残念だったと述べた。

“扶余と公州から飛鳥に見に来る方が多いです。扶余の郡長さんが来たこともあります。その方々からは百済人の匂いがして、そのたびに胸がドキドキします。韓国と日本の間で善隣友好を進めるのが、仏教の精神を実践することだと信じています”と話した。

◆韓国雑誌「フライデー・コンマ」への綴じ込み冊子の中で、明日香を紹介している。

※関西広域機構

関西PR（韓国向け）事業ファミトリップの成果である（2008年10月6日～7日）

※日本語訳

奈良 自転車にのって、歴史の中へGO!GO!

明日香

奈良盆地の南側に位置し、日本古代文化発祥地の一つ。徒歩やバスなどを使っての旅行も可能だが、ここだけは田園を楽しめる自転車旅行がお勧め。奈良県立万葉文化館、日本最古のお寺とされる飛鳥寺、明日香一帯を見下ろすことができる展望台のような甘檜丘などをみるといい。日本で一番大きな方型古墳である石舞台古墳も見所。2,400haの規模で見所がたくさんあるので、自転車代理店で地図をもらうのは必須。

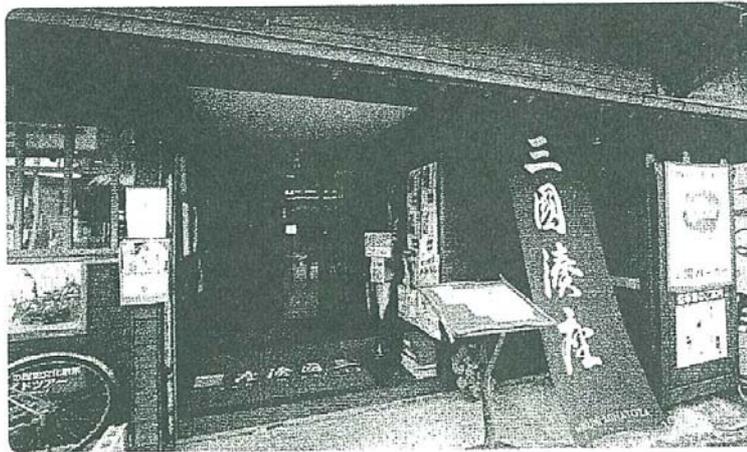
LOCATION| 明日香村御園138-6

BIZ HOUR| 9:00~17:00

TEL| +81-744-54-3919

PRICE| 大人250円、小人100円

스니커즈신고 골목 누비기



후쿠이 후쿠이의 작은 에도 <<
미쿠니미나토 三國港

에도시대에서 메이지시대까지 배가 정박하던 항구로 상업의 교역지였던 거리다. 해산물과 칠기, 금속 조각 등의 세공품이 교역되고 당시 문물의 중심인 도쿄, 교토로부터 다양한 문화가 전래되어 미쿠니만의 독특한 문화를 형성했다. 지금도 당시의 건물들이 고스란히 남아 있어 에도시대의 풍경을 느껴볼 수 있다. 걸어서 마을 전체를 둘러보기에는 꽤 많은 시간이 소요된다. 시간이 촉박하다면 미쿠니미나토 키나미에 거리를 위주로 구경해볼 것. 유형문화재로 등록되어 있는 구 모리 타은행본점이나 옛 상점, 이 거리의 명물음식인 미쿠니버거를 맛볼 수 있는 미쿠니미나토자카 바로 이곳에 몰려 있다. 미쿠니버거(550엔)는 학교를 토평한 버거로 오직 이곳에서만 맛볼 수 있다. 매년 5월 19일에는 3일간 북부지방의 3대 축제 중의 하나인 미쿠니마츠리가 열린다.



나라 자전거 타고 역사 속으로 GO!GO!
아스카 明日香

나라 본지의 남단에 있는 일본 고대문화 발상지 중 하나. 도보나 버스 등으로 여행이 가능하지만 이곳에서만큼은 전원을 즐기는 자전거 여행이 제격이다. 나라 현립 만요문화관, 일본에서 가장 오래된 절인 아스카데라, 아스카 일대가 한눈에 내려다보이는 전망대 야마카시노오카 등을 둘러보면 된다. 일본에서 가장 큰 방형 고분인 이시부타이 고분도 둘러볼 것. 2400ha로 규모나 볼거리가 많으니 대여소에서 지도를 지참하는 건 필수.

>>



(3)

取り組み事例1 ～にぎわい創造に向けた万葉文化館の取り組み～

① キトラ古墳壁画公開との連携事業

万葉文化館では、飛鳥資料館でのキトラ古墳壁画の実物公開時には、明日香村やマスコミと連携してイベント等の取り組みを行ってきた。

期 間 H 2 1 年 5 月 8 日～ 2 4 日

○特別展示室での飛鳥池工房遺跡の出土品の実物展示

完全な形の富本銭

銀精錬に関する遺物（石見銀山より古い）

○野外ステージでのイベント

雅楽

茶席の実施

○キトラ関連の講演会の実施

<参考> キトラ古墳壁画「青龍・白虎」実物公開

会場：飛鳥資料館

H20年5月 「子」「丑」「寅」の実物公開

H19年5月 「玄武」

H18年5月 「白虎」

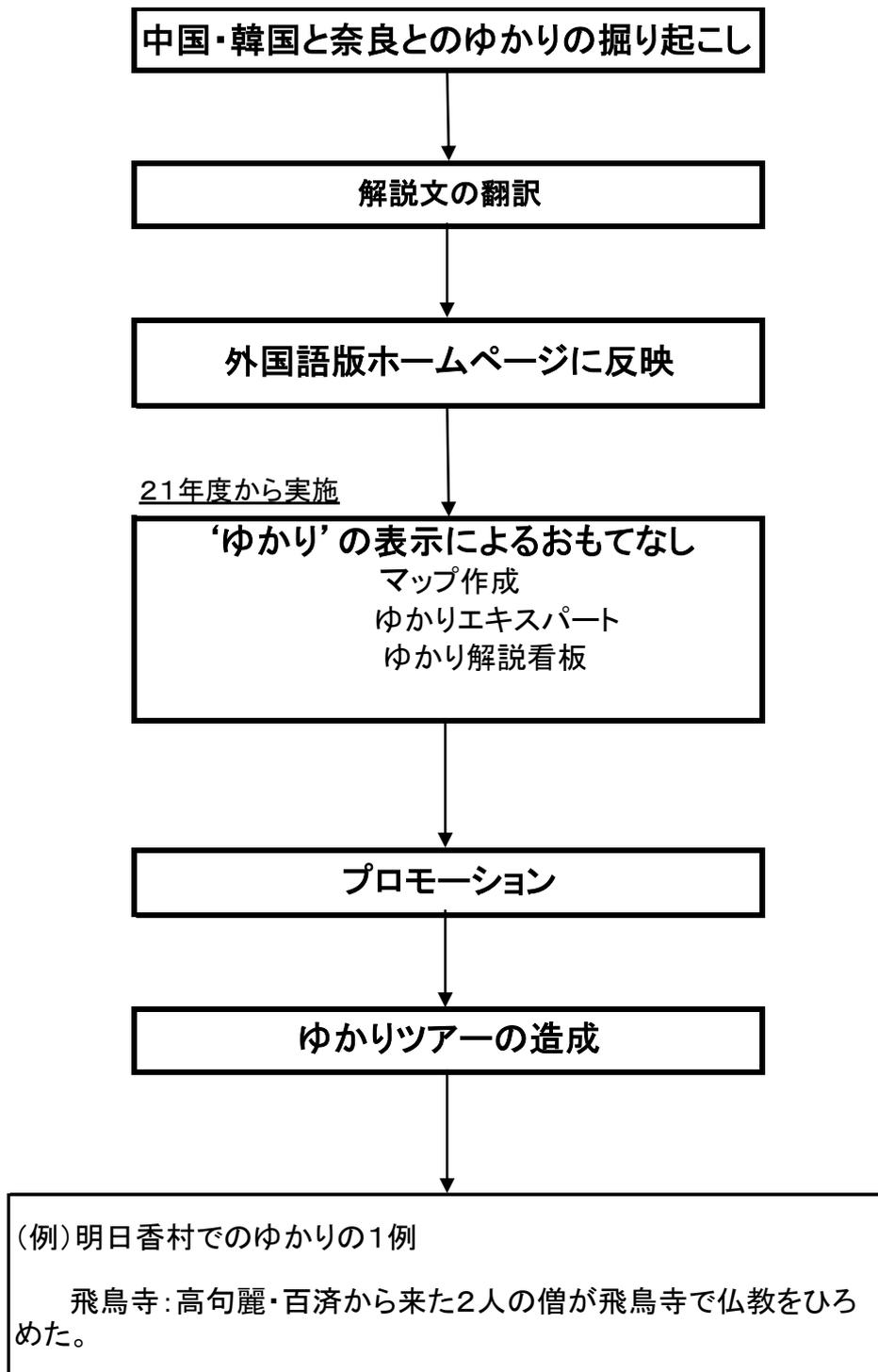
取り組み事例2 ～万葉文化館観光情報発信事業～

- 平成21年4月から、万葉文化館館内に観光インフォメーションコーナーを設置し、明日香村を含めた中南和地域の観光案内や観光情報の発信を実施
- 周辺市町村と連携したイベントの開催

取り組み事例3～(奈良県が行う)中国・韓国とのゆかりを活用した情報の発信～

目的

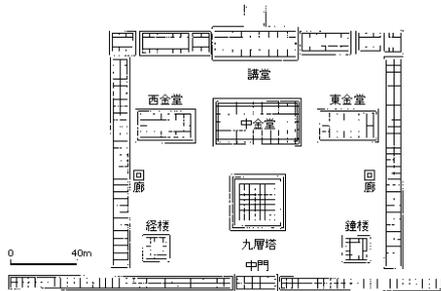
中国・韓国と奈良とのゆかりを中国・韓国からの観光客にわかりやすく発信



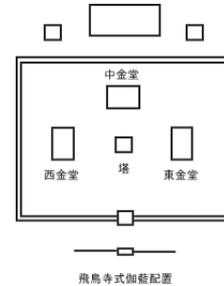
(案)

法興寺(飛鳥寺)

[韓国とのゆかり]



韓国・皇龍寺伽藍(がらん)配置



法興寺伽藍(がらん)配置

(写真添付)

日本最初の本格的伽藍による法興寺(飛鳥寺)は、『日本書紀』によると、587年に蘇我馬子(そがのうまこ)が建立を発願し、翌年の588年に蘇我馬子の要請を受けて、百済が仏舍利・僧・寺工・露盤(ろばん)博士・瓦博士を派遣し、596年に蘇我氏の氏寺として完成したとあります。工事着工から完成まで6年という短期間であったこととなります。工期がこれだけ短かったのは、百済からの各種技術者の援助が背景にあると考えられています。

飛鳥寺の伽藍配置は、一塔三金堂式という塔の東、西、北に三つの金堂を置く様式でした。一塔三金堂式伽藍配置は、高句麗の清岩里(せいかんり)廃寺(はいじ)、上五里廃寺、定陵寺、新羅の皇竜寺跡で見られません。完成後、高句麗から渡来した慧慈と、百済から渡来した慧(え)聡(そう)が飛鳥寺に入り、ともに三宝の棟梁(とうりょう)といわれるなど、仏教を広めることに貢献しました。慧慈(えじ)は、厩(うまや)戸(ど)皇子(おうじ)(聖徳太子)の仏教の師でもありました。飛鳥寺の本尊の銅造釈迦如来坐像(通称飛鳥大仏)は、7世紀初頭、朝鮮半島から渡来した鞍作止利により作られました。この様式は、中国の北魏の仏像様式の影響を受けています。

取り組み事例4～ひろげよう! 「歩く奈良」の推進～

一歩いて味わう奈良の魅力を発掘、ルート化しお伝えします—

県では歩く魅力をつくり、直接・間接にお客様に働きかけて奈良を訪れるお客様をふやしていきます。

明日香村では「持統天皇行幸の道」をテーマにルートを作成しています。

(推奨ルートは【歩きたくなるマップ・ウェブ】に掲載)

2. 関係機関との連携について

(1) 県と近畿日本鉄道（株）の意見交換の場の設定

- ・県文化観光局幹部と近鉄幹部による意見交換の場（“あすなら会”）を開催（年数回）

(2) 近畿日本鉄道（株）と明日香村の関わり

- ・近鉄による明日香村キャンペーンの実施

春 「はるらんまん あすか」

秋 「ミステリーロマン 飛鳥」

期間内に村内で開催されるイベント等をパンフにし、駅構内等で配布（パンフ費用等は近鉄が負担）

- ・企画キップ「飛鳥めぐりフリーきっぷ」発売の実施

鉄道バスのフリー区間の他、寺院（岡寺、橘寺等）、万葉文化館、飛鳥資料館等の割引

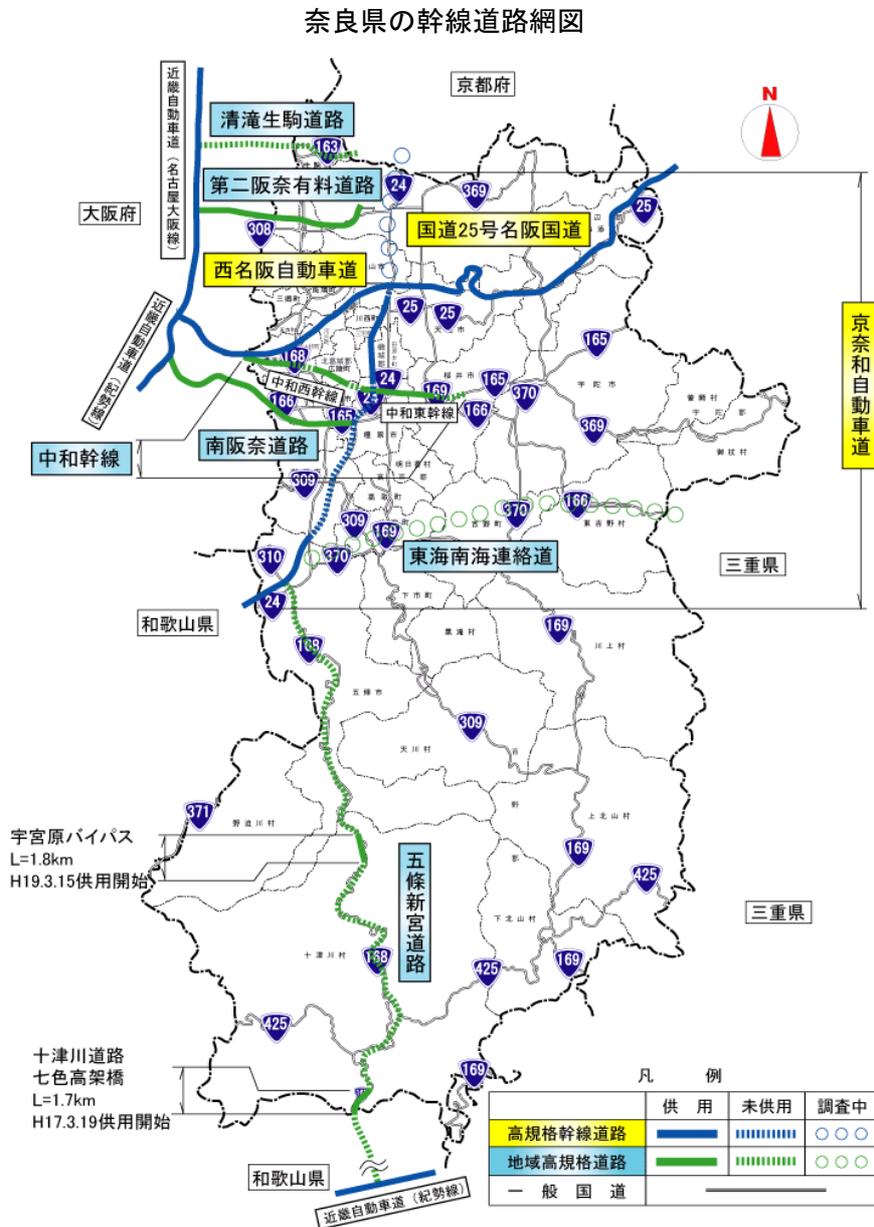
3. 観光利用のための施設の状況

(1) 交通体系の状況

明日香村における交通は、主に、自動車を中心とする道路交通と、鉄道・バスによる公共交通により構成されている。

① 道路交通

道路交通は、明日香村と広域圏を連絡する広域幹線道路である国道 169 号、および明日香村と近隣都市間を連絡する都市幹線道路である主要地方道桜井・明日香・吉野線および県道多武峯・見瀬線、さらに地域内幹線道路である県道樫原神宮東口停車場・飛鳥線、同野口・平田線などがあげられる。



②公共交通

公共交通は近鉄吉野線が村西部を南北に走り、飛鳥駅が設置されている。バスについては平成 15 年 9 月から 2 ヶ年の実証実験が行われ、近鉄橿原神宮前及び飛鳥駅を起点として観光周遊にも利用できる周遊バス（愛称：赤かめ）と、主に村民利用を目的として各集落入口までのルートを運行する循環バス（愛称：金かめ）が運行されている。

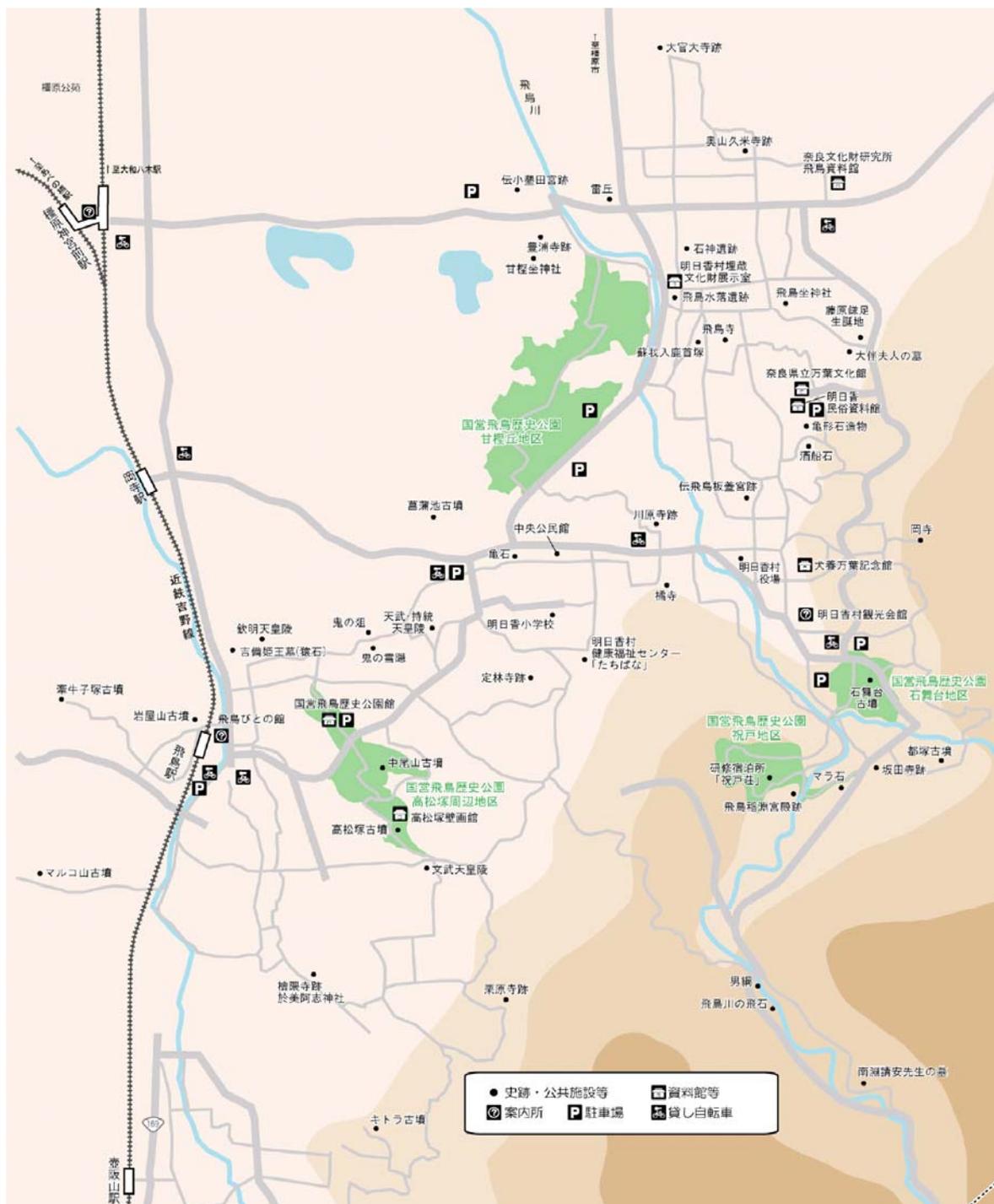
③徒歩・自転車によるネットワーク

徒歩や自転車による周遊観光のため国営公園やその他の史跡等の観光資源をネットワークする飛鳥周遊歩道が整備されている。この周遊歩道は昭和 45 年 12 月 18 日に出された「飛鳥地方における歴史的風土及び文化財の保存等に関する方策について」の閣議決定において、国営公園の整備と同時に一連の環境整備事業の一つとして整備されたものである。

④ 駐車場およびレンタサイクル

駐車場は国営公園に設置された無料駐車場が計84台、公営民営の無料駐車場は11箇所803台整備されている。また自転車によって歴史資源や田園を周遊することが明日香村観光の一つの形態として定着しており、駅前や駐車場周辺など村内外に10社(3,905台)のレンタサイクル業者が立地している。

図 駐車場の分布



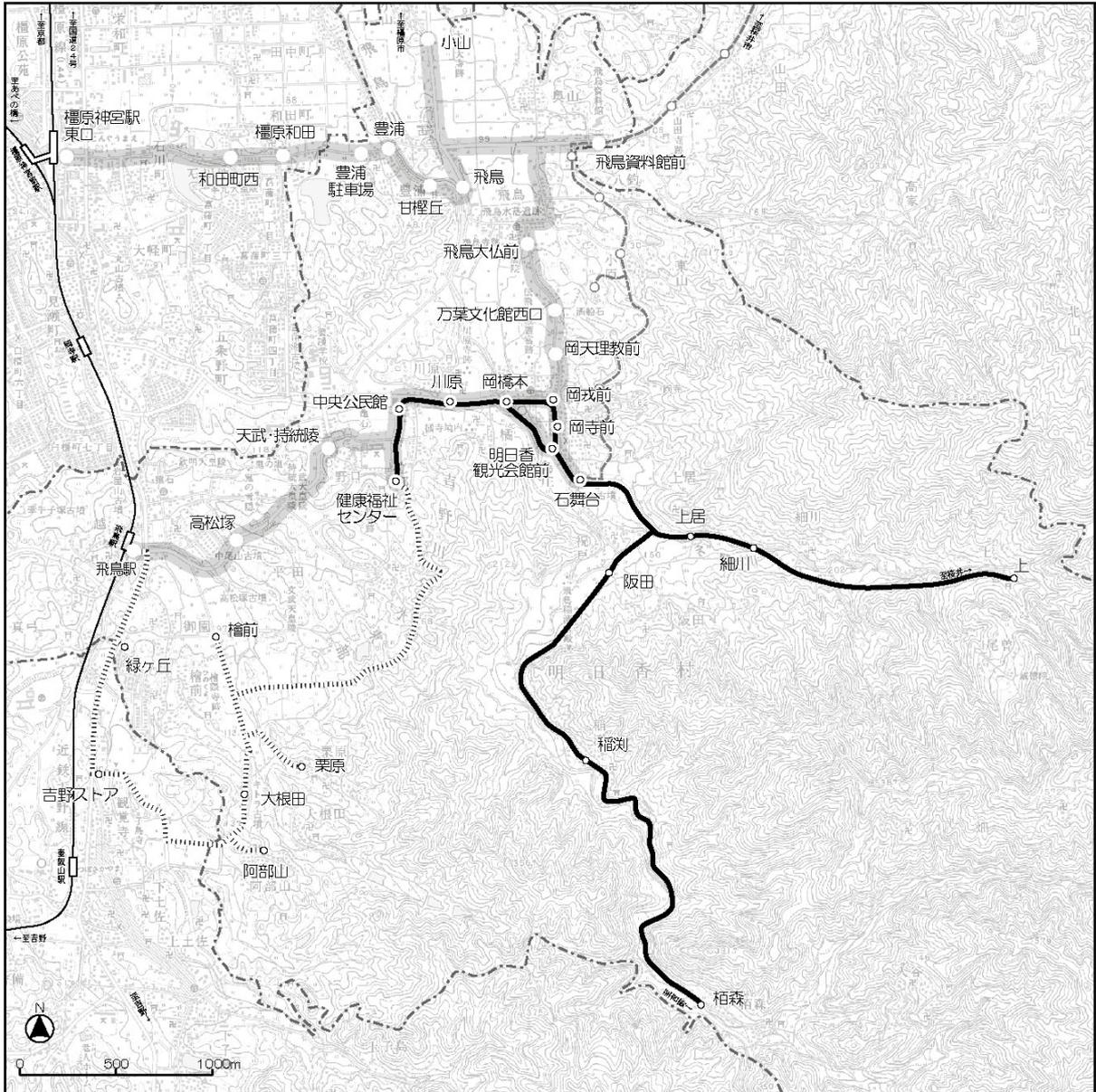
(2) 交通体系の整備に関する計画

①第3次明日香村整備計画（平成12年9月 奈良県・明日香村）

明日香村特別措置法第5条第1項に規定する事業（特定事業）として、周遊歩道3ルート約2.6キロメートルの整備舗装・改良とポケットパーク1箇所1,600㎡の整備が位置づけられ、主要な県道・村道の整備、既設周遊歩道を補完し、新たな観光スポットのネットワーク化を図るための周遊歩道3ルート（約2.6キロメートル）の新設や改良、自然色舗装などの整備、観光客が安らげ、ビューポイントとなる箇所（稲渕地区1,600㎡）に休憩園地の整備を行ったところ。

その他の事業として、飛鳥坐神社付近～談山神社付近～龍在峠の古道において木製による階段や丸太橋、誘導標など簡易な整備を行い、また、飛鳥駅前広場においては、村のレンタサイクルの拠点となるレンタサイクルセンターを飛鳥駅前広場の整備と並行して設置し、駅前に乱立していたレンタサイクル業者の整理統合を図った。

公共交通網図



—●— 循環バス（高市方面）

—●— 周遊バス（バス停）

---○--- 循環バス（阪合方面）

---○--- 奈良交通路線バス（桜井方面）

(3) 周遊歩道の整備状況と現況課題

①周遊歩道整備の経緯について

○昭和45年閣議決定に基づく周遊歩道整備

飛鳥周遊歩道は、昭和48年12月18日に出された「飛鳥地方における歴史的風土及び文化財の保存等に関する方策について」の閣議決定において、国営公園の整備と同時に一連の環境整備事業のひとつとして整備されたものである。

この閣議決定に先立つ審議会（建設省歴史的風土審議会）では、周遊歩道の整備方針は以下のように記されている。

幹線道路に囲まれた区域は、自動車による通行を原則として認めないため、周遊のための歩道網の整備を図る。周遊歩道は駐車場、史跡、公園、飛鳥川等を相互に結び周遊ルートを形成するように配置するものとする。

[第14回歴史的風土審議会資料（昭和45年9月11日）]

この時、同時に「自動車による飛鳥地方来訪者のために、幹線道路沿いに駐車場の配置は各方面からの自動車の処理が容易な位置に6ヵ所設けるものとする」として、菖蒲池地区と豊浦地区の2ヵ所に駐車場が整備されている。つまり、飛鳥地方の周縁部に駐車場を配置し、現在でいうところの「パーク&ウォーク」「パーク&サイクル」を実施しようというのが当初の整備目的であった。

昭和45年の閣議決定により、周遊歩道の整備が位置づけられ、46年度から明日香村の事業として整備が進められ、昭和50年度までに約15kmが整備された。

路線名	延長	幅員	主な周遊地	事業主体	供用開始
第1号橋線	2.9 km	2.5m	欽明天皇陵、鬼の俎、鬼の雪隠、天武・持統天皇陵、亀石、橋寺	明日香村	昭和51年
第2号外回り線	6.6 km	2.5m	川原寺、甘檜丘、飛鳥浄御原宮跡、大官大寺跡、飛鳥坐神社	明日香村	昭和51年
第3号中央線	2.4 km	2.5m	飛鳥寺、板蓋宮跡、飛鳥川	明日香村	昭和48年
第4号酒船石線	0.5 km	2.5m	酒船石、板蓋宮跡		昭和46年
第5号飛鳥寺線	0.5 km	2.5m	飛鳥寺跡		昭和51年
第6号檜前線	2.3 km	2.5m	中尾山古墳、文武天皇陵、於美阿志神社	明日香村	昭和48年

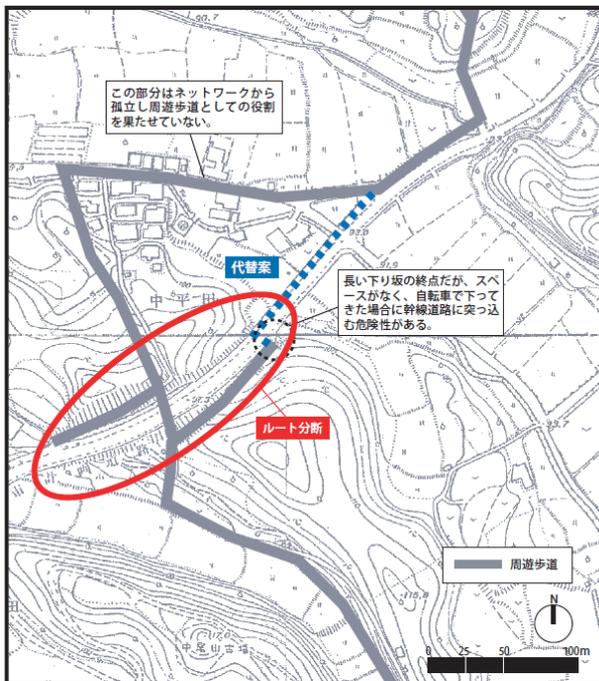
②課題箇所の抽出

近年の来訪者ニーズや新しい史跡の発見などの変化に対応した施設整備や計画が求められている。

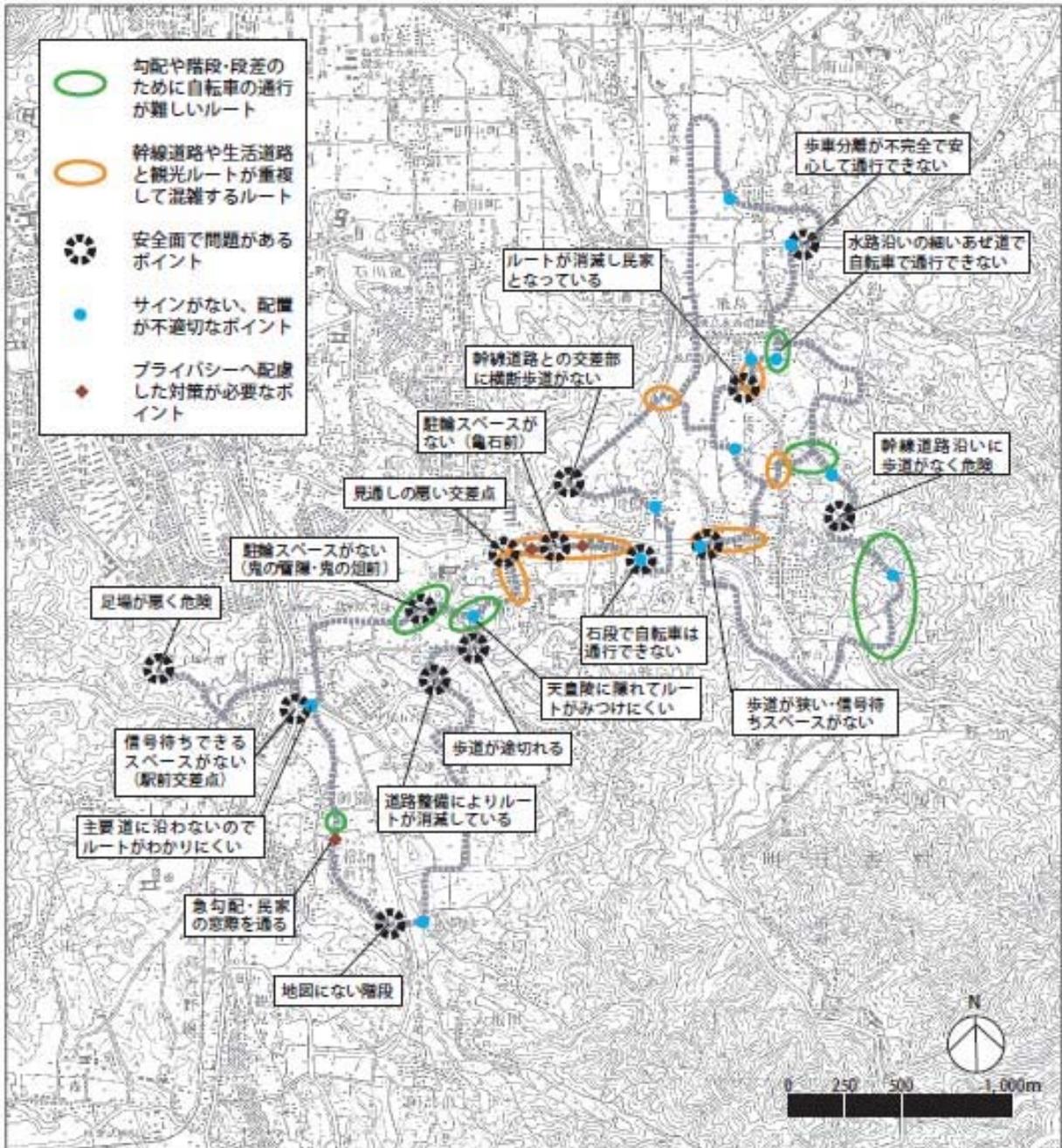
周遊歩道に関する課題

項目	現地調査、分析より
ルート	工事、開発に伴うルートの分断・消滅。
移動	歩車分離の不完全、異なる観光交通手段の交錯。 自転車道の未整備、駐輪スペースの不足。 交差点の見通しが悪い、信号待ちスペースがない。
バリアフリー	急勾配や階段についての情報提供の欠如。
誘導	適切な箇所にサインがない。 サインの統一性の欠如。 サインの劣化、破損による判読不能。
便益施設	休憩施設の不足。 トイレの不足。 食事・買い物のできる場所の不足。
景観	沿道での景観的配慮の不足。
情報提供	小さな史跡、発掘中及び埋め戻し後の文化財への解説不足。
プライバシー	沿道民家の庭先や窓際を通過する箇所がある。
ルート設定	史跡巡りに特化しており、近年多様化するニーズに対応できていない。
利用促進	現在、特に利用促進策が講じられていない。 観光マップ上の表記が統一されていない（名称、ルート等）。

課題箇所例：都市計画道路御園豊浦線の新設に伴うルートの分断箇所



周遊歩道課題箇所図



主な課題点



■信号待ちや観光ポイント前のスペースの不足 ■工事、開発に伴うルートの分断・消滅 ■沿道民家へのプライバシーの配慮

歩道自転車道計画図【第3次明日香村整備計画】

